

衛星データと深層学習による推定収量を活用した農業保険の開発

- ◆ 従来の農業保険は、実損害が確定しないと保険が支払われない問題や、インデックス保険の場合は実際の損害額と保険金支払額の差が大きい、という問題が存在。
- ◆ 衛星データを元に農作物の収量を推定することで、これら課題を克服し新たな保険を設計。

現状

実損型農業保険のデメリット

- 最終的に収量減少が確定しないと保険金が支払われず、迅速性に欠ける。
- 不熱心な生産活動を惹起するおそれがあり、保険金の不正取得を目的とする道徳的危険がある。

天候インデックス保険のデメリット

- 保険金支払いのトリガーが天候不順のみであり、定額支払いのため、実際の損害額と保険金の支払い額に差が生じる可能性がある。

衛星データをインプット



農作物の収量を推定



新しい農業保険を開発



東南アジアでの展開を検討